

うるわし通信



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

平成27年5月

WELCOME：留学生in大福吉備

教育を軸とした地域おこしを進めている大福吉備は5月25日、外国人留学生16名のホームステイを受け入れることになりました。

この一行は神戸情報大学院大学で学んでいる学生です。この大学はICT（情報通信技術）を使って途上国の社会課題解決を専門的に行う、世界的にもユニークな専門職修士課程「ICTイノベータコース」を開設しています。このコースの主な受講者は、外務省や文部科学省を通じて募集されたアジアやアフリカ各国の将来を担う行政官や産業人材であり、課程終了後は本国において社会課題開発現場での活躍が期待されています。彼らは将来の自国の発展に寄与するという高い目的意識と情熱を持って日本で学んでいます。



神戸情報大学院大学秋季入学式

当日は桜井市役所を表敬訪問。グリーンパークを見学の後、大福吉備へ向かうこととなります。

NPO法人コミュニケーション研究センター(CCS)

留学生の受け入れについては、昨年設立されたCCSの活躍があります。CCSは「コミュニティ・カレッジ知の森」を開校しましたが、国際協力の最前線で経験を重ねてこられた研究者を招いての講座は、貧困からの脱却と平和の構築を模索する世界的課題を体験をふまえてのわかりやすい解説で受講生に感銘を与えています。受講生は男女を問わず、高齢から高校生まで幅広い層に広がっています。こうした受講生の持つ国際交流をみぞす意識が、いっそうCCSの活動を支えています。

国際交流は大福吉備より

3年前にも大福吉備の地域おこしを紹介しましたが、大福吉備は構想の基幹に教育事業を掲げ、実現としてCCSの設立があり、講師や受講生と地域の交流も始まりました。

これには桜井西ふれあいセンターの存在とそのスタッフの適切な助言も忘れるわけにはいきません。地域をあげて人権を提唱し、あらゆる差別をなくそうとする大福吉備の熱意と誇りが地域活動を支えています。これが留学生たちの桜井市への訪問となり、大福吉備でのホームステイとなりました。

日常生活を通じての交流が、やがて、学生たちが祖国へ戻ってから、ヒューマンな感覚を保ちながらの国際協力の成果となりますように……と今回の成果を願っています。

浅川 肇

人間的なふれあいを深めたくて…

本年5月末に行われる、神戸情報大学院大学の留学生研修をコミュニケーション研究センター（以下、CCS）で引き受けさせて頂くことになり、この研修での1泊のホームステイをCCSが連携している地元、大福吉備地区で受け入れることとなりました。

研修学生はアフガニスタン、ルワンダ出身者を中心とした留学生16名で、大学院生であることから、年齢層は23～36才、発展途上にある出身国の国づくりを担う若きリーダー達と言えます。このイベントを受け入れ側である大福吉備地区のまちづくりにとって、様々な面で大切な学びの場にしたいと考えています。

大福吉備地区では、過去様々に地域の子育てに取り組んできた経緯があり、現在でも小学生の学習サークルを開催し、地域の人間関係が弱まる中、難しくなっている子育てを、何とか地域で支えることができないかと模索していますが、そのような折、島岡先生の提案で昨年からは、地元と連携した高等教育機関「コミュニティ・カレッジ」の創設を目指すこととなりました。

これが実現するならば直接の教育活動とともに、その存在自体が地元には大きな影響を与えてくれるのではないかと考えています。子どもや親たちの視野を広げ、将来の選択肢を広げることができるのではないかと考えています。

かつて大福吉備地区を中東、アフリカ出身者が団体で訪れたことはありません。地元の人々にとっては少なからずカルチャーショックを受けることになるかもしれません。しかし異文化を知り、尊重して友好な関係を築くための努力をすることは意義ある経験です。わずか1泊の食事や入浴を考慮だけでも、例えばイスラム文化の人たちには、豚肉の混入を、調味料に及んで点検することなど、様々な配慮が必要になります。

そうしたことを地域の共同体として取り組むことができるのです。被差別として「異文化」の排除を経験してきた地元が、それをどこまで踏まえて、受け入れることができるのか、地元のひとりとして興味深いところであり、受け入れの準備を進める上で深めたいところでもあります。また、政治が戦争への方向に傾いている中で、民間の国際的な友好関係が平和を守る上で大切になるのではないかと思います。

ともあれ、ゲストの受け入れは理屈ではありません。相手への配慮を通じて人間的な触れ合いを深めることができるよう、準備を進めたいと考えています。

大福吉備ホームステイ実行委員会（仮称）伊藤 満



メイクるタウンフリーマーケットの様子

今年のCCS“コミュニティ・カレッジ知の森”

講座内容

- 第1回：平成27年5月10日（日）「アフガニスタンの今後—平和の構築」
講師：山田好一（関西学院大学教授）
- 第2回：平成27年5月17日（日）「マレーシア・サバ州—自然保護と住民のかかわり」
講師：松永龍児（神戸情報大学院大学教授・横浜市立大学特別契約教授）
- 第3回：平成27年5月24日（日）「カンボジア：平和の定着と森林伐採—旧ポルポト派除隊兵士を例として」
講師：東 佳史（立命館大学教授）
- 第4回：平成27年5月31日（日）「インドネシアの急成長と人々の暮らし」
講師：竹内智子（和歌山大学国際教育研究センター参事役）
- 第5回：平成27年6月7日（日）「中国の経済発展と国際協力」
講師：桑島京子（JICA客員国際協力専門員・立命館大学客員教授）

昨年の経験をふまえて、いっそう充実した内容の講座を続けます。

講師は質疑の時間を多めにとられます。受講者の発言を（それが、たとえ初歩的なものであっても）尊重されています。

いわゆる一般商業新聞では伝えられない貴重な体験談と資料を通じて、本当の国際交流とは何か、わたしたちの知らないところで政府を通じて、どんな形の、どんな内容の国際協力をしているのか。現地の反応は？ 今後はいかにあるべきか。いろいろ考えさせられます。

わたしたちは国際協力や国際交流といいながら、日本的思考のワクに自らはまりこんで、新しい視点が持てないのではないか。

特にアジア・アフリカの発展については、わたしたちはあまりにも現実現状をとらえられずにいるようです。

欧米型社会を目標としてきた、わたしたち日本社会への反省もあります。

文化の違い、宗教の違いをこえて地球上に平和を構築するには、アジア・アフリカの人たちと同じ目線で共に考え、共に働くことが大切であり、もしも、わたしたちになお人種差別の断片があるならば、交流を通じて、お互いに人間であることを確信することができるというものではないでしょうか。

（島岡理事長と浅川対談のまとめ）



ワークショップの様子



世界市民防災会議(仙台)に参加



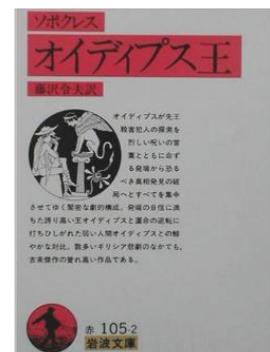
事務局だより

- 常任理事会は5月23日(土)午後3時30分より市立図書館：和室で行います。
- 平成26年度定時総会を6月13日(土)午後1時より桜井市立図書館にて開催します。
総会后、午後2時から同会場にて、林 功さま(桜井市理事)を招いての公開講演会と意見交歓会を開催しますので、会員以外の方の参加も歓迎します。

お知らせ

● 図書館友の会

5月の読書会は、『オイディプス王』ソポクレス著を読みます。
オイディプスは国に災いをもたらした先王殺害犯を追及する。
その結末は？世界文学史上にきらめくギリシャ悲劇の傑作です。
日 時 5月26日(火)午後1時30分から
場 所 まほろばセンター市民活動交流拠点
問い合わせ先 浅川 肇 TEL：090-1961-6345
友の会会員以外の参加も歓迎します。



● コミュニティ・カレッジ知の森 国際教育入門講座

「豊かさと平和をめざすアジアの国々 貧困と開発 国際協力の最前線」
国際協力の最前線で活躍してこられた5人の先生方によるオムニバス講座です。貧困からの脱却と平和の構築を模索するアジアの国々の取り組みが、ゆたかな現場体験をふまえて報告されます。
日 時 5月10日(日)～6月7日(日) 毎週午後1時30分～3時30分
場 所 コミュニティ・カレッジ知の森 第1教室
受講料 5回で3,000円(高校生・大学生は1,000円)
問い合わせ先 NPO法人コミュニケーション研究センター 島岡
TEL&FAX：0744-24-2556 E-mail：shimaoka@mx5.canvas.ne.jp

- 市民活動交流拠点の事務局員として『青木なぎさ』さんが着任されました。
あわせて電話番号が変更になりました。新しい番号は 0744-43-3066(FAX兼用)です。
皆様よろしくお願ひします。

後記 新学期が始まり、小さな身体に大きなランドセルの新入児童の姿をみるのは、肉親でなくても可愛いくて楽しい。

それにつけても、永年、通学児童に、観光客に、買い物客に困惑と苦痛を与え続けた市道大福・慈恩寺線貯木場踏切の拡幅が実現に向かったのは朗報である。本会の創立発起人の故芝房治氏がこの問題の解決に骨身を惜しまず、各方面に、それこそ地を這うように働きかけて居られた姿が目につく。

そして「なせばなる なさねばならぬ 何事も なさぬは人の なさぬなりけり」という格言を改めて思い起こす。

関係者の労に感謝し、故芝房治氏の霊前に報告したい。(あさ)

うるわし通信編集責任者
〒633-0091
桜井市桜井142-5-203
浅川 肇
TEL090-1961-6345